今後の課題等

吹田市　・　摂津市

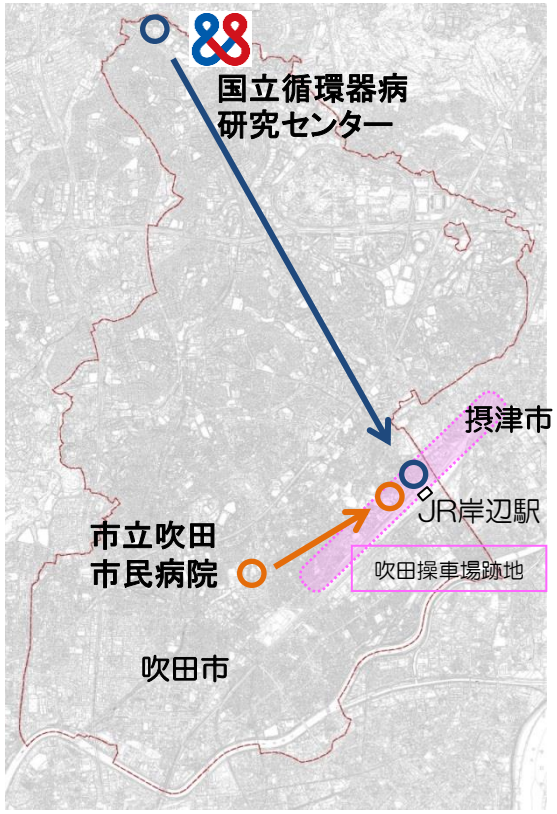
資料6

国立循環器病研究センターの吹田操車場跡地への移転

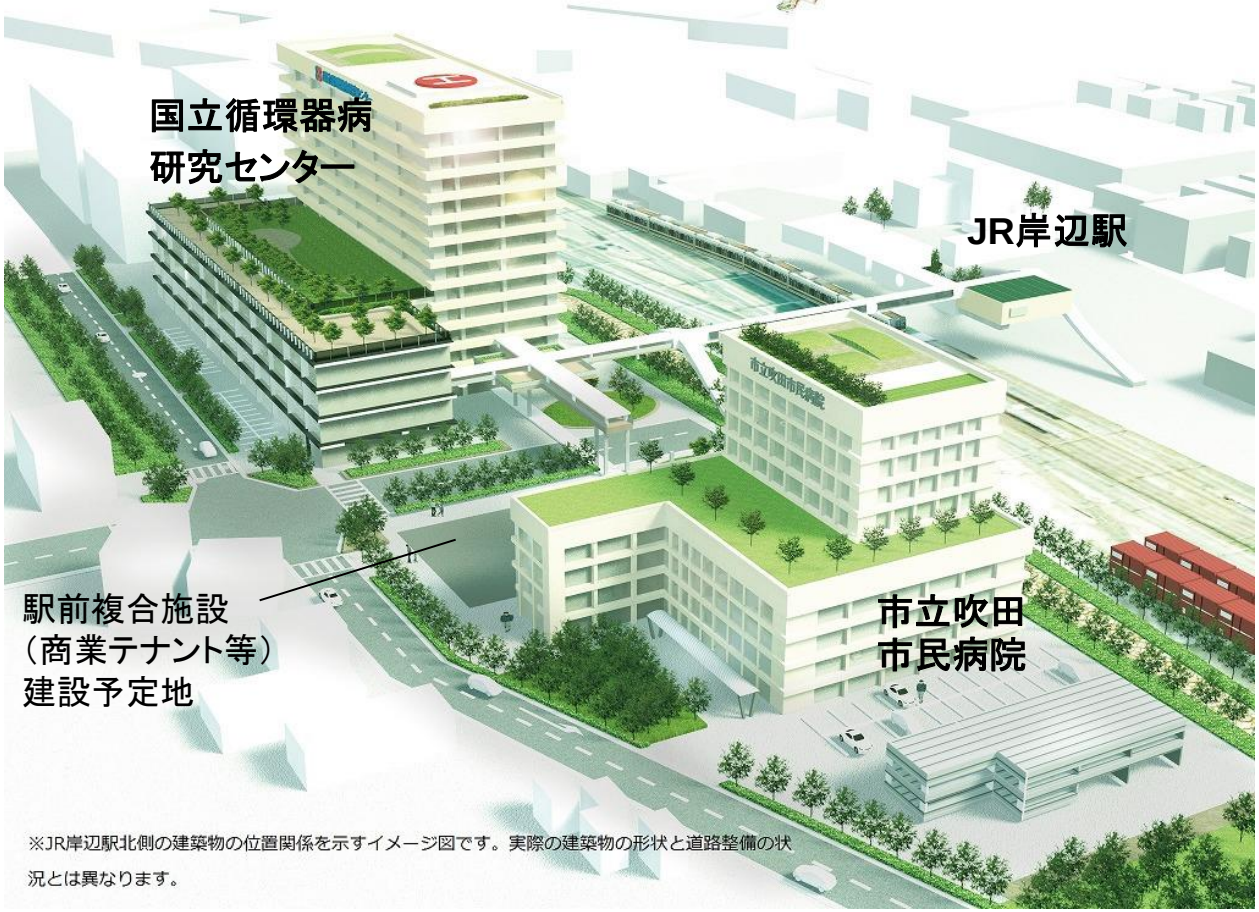
○　平成２１年から誘致を続けてきた国立循環器病研究センターが、平成２５年６月１１日に吹田操車場跡地への移転を決定。

○　同地へ市立吹田市民病院の移転や医療研究機関と医療関連企業の誘致を進めるなど、国際級の医療クラスター（複合医療産業拠点）の形成を目指す。

【位置図】



【移転建替後のイメージ図】



※JR岸辺駅北側の建築物の位置関係を示すイメージ図です。実際の建築物の形状と道路整備の状況とは異なります。

国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院の移転に伴う吹田操車場跡地を中心とした地域医療の課題

○　国立循環器病研究センターが吹田市藤白台から、市立吹田市民病院が吹田市片山町から、それぞれ吹田操車場跡地に移転するが、地域医療の観点で以下の課題がある。

① 両機関が隣接することによる連携・機能分担　（別途二者協議を実施）

② 両機関が吹田操車場跡地に移転することによる地域の診療所・薬局との連携・機能分担

③ 両機関が吹田操車場跡地に移転することによる近隣病院との連携・機能分担

④ 国立循環器病研究センターを核とした地域における予防医療の実施・啓発

⑤ 2025年に向けたこのまちの地域包括ケアシステムの構築（医療の観点→在宅医療の推進、地域連携パスの活用、介護関係機関との連携等）

⑥ 吹田市（豊能医療圏）、摂津市（三島医療圏）の市境という立地　　等

【参考】

なお、これらの課題は、吹田市全域の地域医療への影響も想定されることから、吹田市では、吹田市医療審議会への報告を随時行い、当該報告に対する意見等は、本会議に報告する。

医療クラスター形成に合わせた
吹田操車場跡地のまちづくり（ソフト面）の基本的考え方

○　吹田操車場跡地では、国立循環器病研究センターの移転等を見据え、
- 吹田市民病院の移転や、
- 医療研究機関や医療関係企業の誘致などを進め、

我が国を代表する国際級の医療クラスターの形成を目指す。

○　また、今後は、
- こうした医療関係機関の移転や誘致など、ハード面でも整備を進めるとともに、
- この「まち」ならではの「強み」を活かしたソフト面の環境整備も重要。

国立循環器病研究センターをはじめとする医療クラスターの特性を最大限に活かし、<u>循環器病予防等の「健康・医療」をコンセプトにした新しい形のまちづくり</u>の推進

【参考】

なお、以下の点を踏まえても、循環器病予防は、健康寿命の延伸や医療費適正化に資するものであり、推進する意義は大きい。

- 我が国の医科診療費（歯科診療、薬局調剤等は除く。）約27.8兆円のうち、<u>循環器系の疾患は、新生物、呼吸器系疾患を抑え、最大</u>の21%（約5.8兆円）を占める。（出典：厚生労働省「平成23年度国民医療費」）
- 重度の要介護状態に直結しやすく、要介護５の方が介護が必要となった主な原因に占める<u>脳血管疾患は、新生物や認知症を抑え、最大</u>の33.8%を占める。（出典：厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査」）

【参考】

日本再興戦略 －JAPAN is BACK－

（平成25年6月14日閣議決定）

○　政府の3本目の矢とされる成長戦略「日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）」において、**『国民の「健康寿命」の延伸』**が、テーマに掲げられた。

「第Ⅱ．3つのアクションプラン」→「二．戦略市場創造プラン」→「テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸」

我が国の健康寿命は、世界で最高水準となっている。我が国の医療・介護システムは、国民皆保険制度の下、フリーアクセスを維持しつつ、比較的安価な費用負担で、質の高いサービスを提供し、これに寄与している。

しかしながら、

・　慢性疾患による受療が多い、疾病の罹患率が高い、要介護率が高いなどの特徴を有する75 歳以上の高齢者の増加、

・　一人暮らし世帯など、家庭内の相互扶助が期待できない高齢者の増加、

・　医療・介護技術の進歩による、サービス提供水準の高度化、

などにより、国民の需要が増大している。

2030 年には、**予防サービスの充実等により**、国民の医療・介護需要の増大をできる限り抑えつつ、より質の高い医療・介護を提供することにより、**『国民の健康寿命が延伸する社会』を目指すべき**である。

このため、「健康・医療戦略」（本年6月14 日関係大臣申合せ）も踏まえ**、次の3つの社会像の実現を目指す。**

① 効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会

②・③　（略）

医療クラスター形成に合わせた
吹田操車場跡地のまちづくり（ソフト面）の基本的考え方（案）

国立循環器病研究センターをはじめとする医療クラスターの特性を最大限に活かし、循環器病予防等の「健康・医療」をコンセプトにした新しい形のまちづくりの推進

「コンセプトの共有」や「マルチ・バイ連携」が重要

※①～⑦は、吹田市・摂津市が考えるイメージ

① 行政の役割（案）

→ 全体の企画調整、事業主体への協力・支援、関係者との連携によるまちづくりの広報、市民参加型の健康づくりの施策実施、国循との連携による企業等の誘致、URと連携したスマートハウスの整備 等

② 国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院の役割（案）

→ 地域と一体となった医療の提供、健康・医療と結びついた地域に開かれた「学び」や「体験」の場や機会の設定、地域における予防医療の啓発 等

③ 駅前複合施設（開発業者、入居予定の商業テナント等）の役割（案）

→ 健康（食事・運動等）に関する商品・サービスの提供、テナント共同でのイベントの企画、国循・市民病院・行政等とのタイアップ（エビデンスの活用等）、来訪者向けの健康チェック設備の設置 等

④ 当地に集積する医療研究機関や医療関連企業の役割（案）

→ 研究機関や企業の共同による医療技術等の「学び」や「体験」の場の設置、②及び③への協力・支援 等

⑤ 地区三師会（地域の診療所、薬局）の役割（案）

→ 地域医療の推進、行政が実施する施策との連携、②～④への協力・支援、地域住民への啓発 等

⑥ 地域住民の役割（案）

→ 行政が実施する健康づくりの施策への参画、雇用者として各街区の事業への参画 等

⑦ 地元企業の役割（案）

→ 行政が実施する施策との連携、②～④への協力・支援、地域住民への啓発 等

※ 周囲で簡単な運動等ができる環境整備（歩道、ベンチ、日よけ、水飲み場の整備等）や、路上禁煙・施設内完全分煙も検討が必要。

吹田市「健康・医療まちづくり」基本方針の概要

（平成26年5月19日策定）

基本的な考え方

国立循環器病研究センターの吹田操車場跡地への移転等を見据え、医療費の多くを占め、重度の要介護状態に直結しやすい**循環器病について、予防医療や健康づくりの推進、市民参加型の取組のモデルの創成など、様々な取組を推進**。

現時点で考える具体的な取組例

① **国立循環器病研究センターが行う予防医療の取組に対して支援**を行うとともに、**同センターとのコラボレーションによる効果的な健康施策**の検討。

② 民間活力を活かしたコミュニティビジネスという形も含め、**地域の方々が「予防」と、「生きがいづくり」や「就労」を兼ねて主体的に参加するモチベーションがわくような施策**の検討。

③ 吹田操車場跡地に開発される**駅前複合施設に入る商業テナント等と連携したこの地域ならではの健康関連施策**の検討。

取組の推進により目指すもの

① 予防医療や健康づくりの推進により、**市民の健康寿命（日常生活に制限のない期間）の延伸を図る**。

② 健康寿命が延伸した**高齢者等の生きがいづくりや、その力を活用した地域活性化を進める**。

これらにより、健康・医療のまちづくりの「吹田モデル」を先進例として示し、世界をリードする健康都市を目指す。

具体的な内容の検討

健康・医療のまちづくりを関係者全員の協働により推進していけるよう、医療関係者と関係行政機関で**協議する会議を立ち上げ、市民や企業の声を聴きながら、具体的内容を検討**。